人吉市まちなかグランドデザイン推進アクションプラン

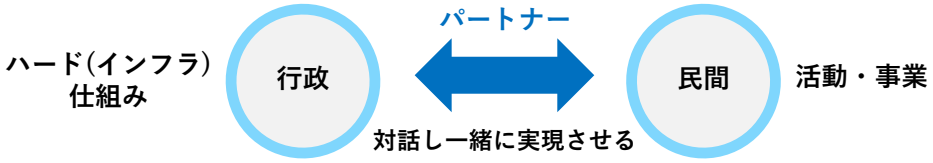
概要版

はじめに～安心して住み続けられるまちづくり～

人吉市では、令和2年7月豪雨からの復旧・復興のため「人吉市復興まちづくり計画」に基づき、球磨川水系流域治水プロジェクトと連動して、安心して住み続けられるまちづくりを進めています。なかでも特に被害が大きかった「まちなか」エリアを対象に、官（行政）と民（民間）が連携してまちの将来の姿を具体化し、実現するために多くの方々と対話を重ねて取りまとめたのがこのアクションプランです。

地域の個を喪失せず人吉らしい姿でありながらも、より豊かな未来をつくるためには、災害から元の姿に戻すのみでなく、暮らしとなりわいの復興のその先を見越したハード整備や仕組みづくりが重要です。アクションプランの中には、球磨川の恵みや人吉のまちの資源のもとに、人々が憩い、楽しみ、豊かに過ごす将来のまちなかでのシーンが、エリアごとに描かれています。

描かれた将来の姿は、行政だけで実現できるものではなく、これからのまちを担う民間のみなさんとさまざまな取り組みや実験を経て実現できるものです。このアクションプランは、まさに今始まったばかり。これからの取り組みによって内容も更新を重ねます。このアクションプランに、ぜひあなたのアイディアやありたい暮らしの姿を重ねてみてください。

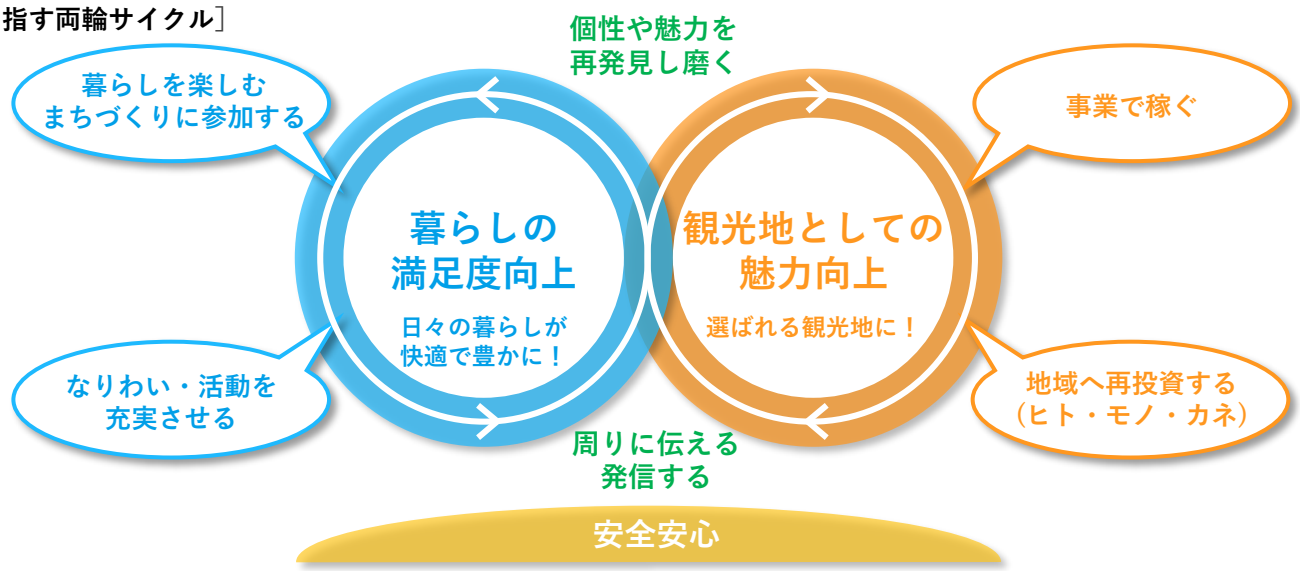


私たちが描くまちづくりのサイクル

住み続けたい・行ってみたい・共に楽しみたいまちへ

アクションプランを通じた復興まちづくりで目指すのは、暮らす人が「住み続けたい」と思える、市外の人が「行ってみたい」と思える、そして誰もが「共に楽しみたい」と思えるまちになること。そのためには、暮らしの満足度向上と観光地としての魅力向上の両輪が好循環を生み出していくことが大切です。魅力あふれる人吉球磨の個性を大切にし、最大限に活かすことで暮らしとなりわいが充実し、地域への再投資が生まれる。そこから育つのが、次世代の子ども達や内外の人吉ファンが関わり続けたいと思える魅力あるまちの姿です。

［目指す両輪サイクル］



清流球磨川の恵み
人吉球磨の個性・魅力

歴史のストーリー・原風景

様々な生業・産業との結びつき

流域の森やまちとのつながり

©緑川ゆき・白泉社／「夏目友人帳」製作委員会

アクションプラン策定まで

まず最初に、まちなかグランドデザインに描かれている行政のビジョンに、まちの人・事業者、専門家のアイディアや想いを重ね合わせ、令和6年11月にアクションプラン素案をとりまとめました。その後、５エリア全体のまちの人との意見交換、今後自らやりたいことのある市民・事業者による担い手ワークショップを実施し、来年度社会実験で実施するアイディアをイメージしつつ、過程の議論を反映させて、令和7年3月にアクションプランをとりまとめました。

行政
- 行政各課重点施策
- ５エリア既存ビジョン
  ①青井エリア　②中心市街地エリア
  ③麓・老神エリア
  ④かわまちづくりエリア
  ⑤人吉駅エリア

まちの人・事業者
民間事業者・市民のアイディア
（個別ヒアリングの実施）
- 既存の活動、事業
- 復興まちづくりに関する意見
- 今後の将来像イメージやアイディア、大切にしたいこと

専門家
各専門家のアイディア
（デザイン会議にて議論）
- 公民連携の進め方
- 回遊動線／拠点
- 景観形成・夜間景観
- 交通／モビリティ／駐車場
- 情報発信

デザイン会議

↓ アイディア集約

アクションプラン素案とりまとめ（令和6年11月）

合同意見交換会（令和6年12月）

アクションプラン素案を叩き台とし、人吉の豊かな未来を実現するためのアイディアを出し合う時間として、高校生を含むさまざまな世代・エリアのまちの人・市内外の事業者など約130人が集まり、意見交換を行いました。

まちづくり協議会（令和7年2月）

青井・中心市街地のまちづくり協議会とアクションプラン素案などについて議論を行いました。

出張窓口（令和7年2月）

2月3日～7日までまちなか出張窓口を設け、アクションプラン素案に関する対話を行いました。

担い手ワークショップ（令和7年1月・2月）

まちの人・市内外の事業者が集まり、第1回目（1月）は自ら実践したいアイディアを発表・共有。それらのアイディアを第2回目（2月）やその後の打合せで議論・ブラッシュアップしました。約90人の活動・事業者の皆様の提案が集まりました。

↓ 反映

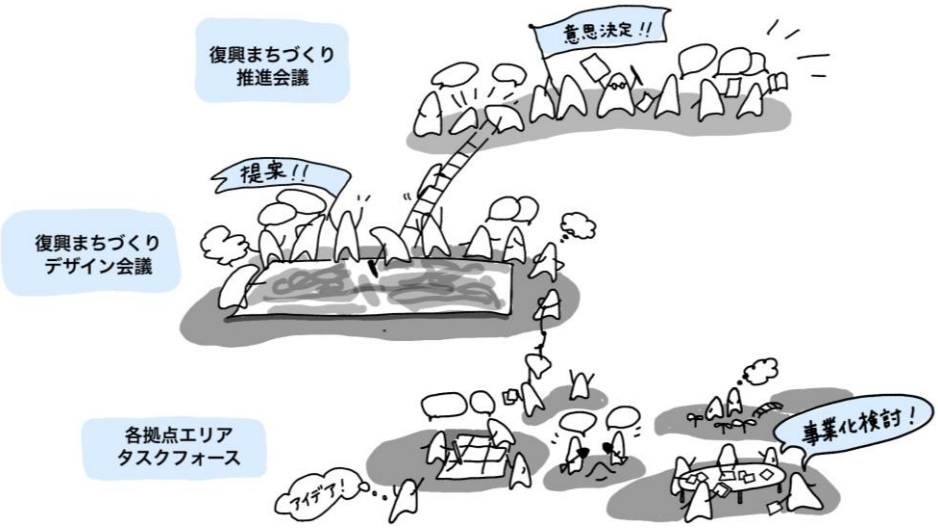
アクションプラン策定（令和7年3月・現在）
次年度社会実験内容・主体・検証項目の方向性

▶ まちなかフォーラムにて共有(令和7年3月)

地域の人・専門家・行政の意見から具体案へ

事業者・専門家・行政等によるデザイン会議が、各拠点エリアを中心に具体的な将来像や事業化検討等を行うタスクフォース（TF）と連携して具体策を検討し、意思決定組織である推進会議へ提案を行う体制で進めていきます。

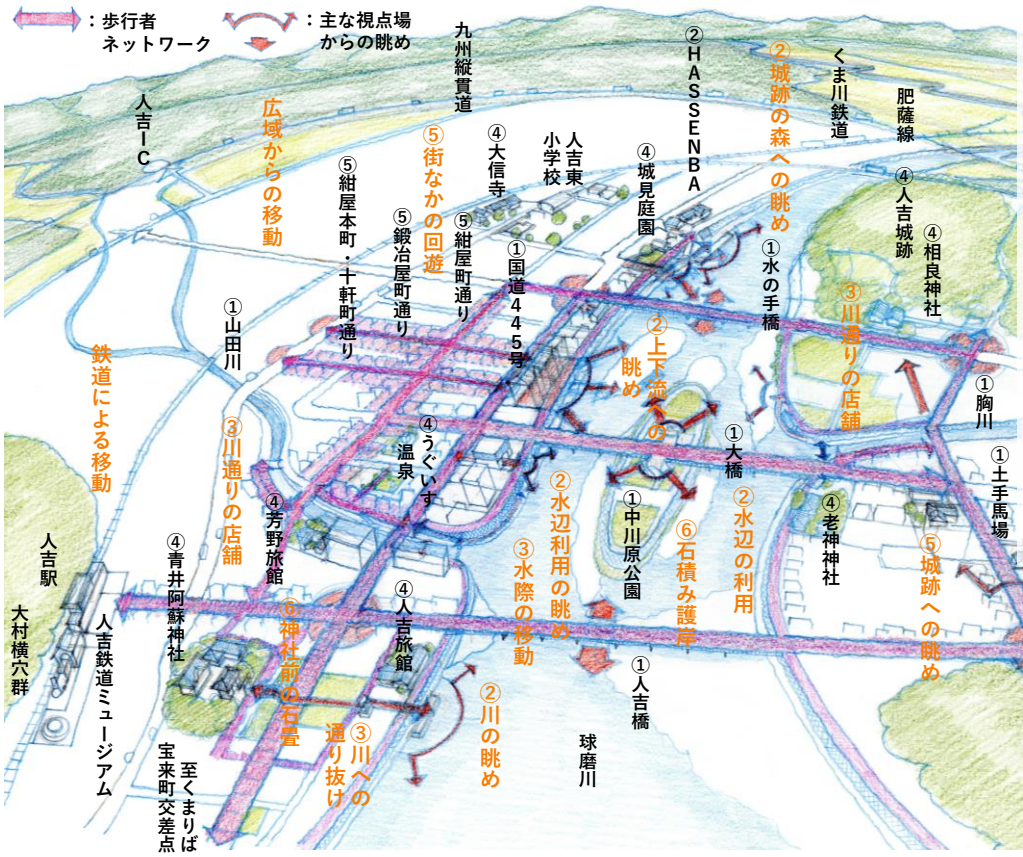
タスクフォースは現状エリアやテーマに応じた12チームが各種検討を進めています。今後、その他のエリアやテーマのプロジェクトが生まれたら、新規タスクフォースを立ち上げることも想定しています。



景観形成の考え方

特徴的な「水・森・道」を活かした公共空間整備と民間利活用との連携によって、人吉らしい景観を形成

人吉球磨の観光の起点となる人吉市街地は、九州縦貫道の人吉IC・人吉球磨スマートICや肥薩線・くま川鉄道によって広域交通ネットワークを形成し、球磨川を中心とした**水文化の拠点**となっています。市内中心部は３つの橋が両岸を結び、２つの支川（山田川・胸川）と中州（中川原公園）が作る地形によって、**特徴的な景観や水辺の使い方が生まれています。**これらを**眺め、巡る視点によって、人吉らしい風景を活かした景観形成**を目指します。



■景観形成の６つの視点

①市街地の主要動線と各エリアの視点
回遊を促す表通りと特徴的なエリアや支川をつなぐ

②川沿いの視点
橋梁間の特徴を活かした川沿いや水辺の利用を促す

③川通りの視点
川に開かれた街並み形成や川へのアクセス強化、川通りでのにぎわい創出

④街なかの森・未利用地の視点
既存の森と新たに整備する緑を連続させ、未利用地の暫定的活用を促す

⑤通りの個性の視点
目抜き通りや飲食街としての通り、歴史のある通りなどの個性を活かす

⑥素材の視点
人吉城跡を尊重した石積み護岸や神社の趣を感じる石畳を使っていく

交通・駐車場・モビリティの考え方

公共交通を強化・補完し、まちなか各所のアクティビティとモビリティの統合的サービスを図る
～市民生活の利便性と来街者の回遊性を高める「MaaS」(Mobility as a Service)の展開～

①**各交通モード間の乗り換えをスムーズに行うことができる「モビリティ・ハブ」を要所に整備**し、自分のペースでゆっくりとまちなかを回遊・体感できる交通インフラを形成します。

②自動運転やAI等の新技術を積極的に取り入れ、**時代に応じた交通システムへとアップデート**します。

③**来街者用の駐車場については、将来の需要を想定し、新規確保を検討**します。

④**シェアサイクル**については、既存のリソースの有効活用を前提としながら、**公民連携による持続可能な運営方式を検討**します。

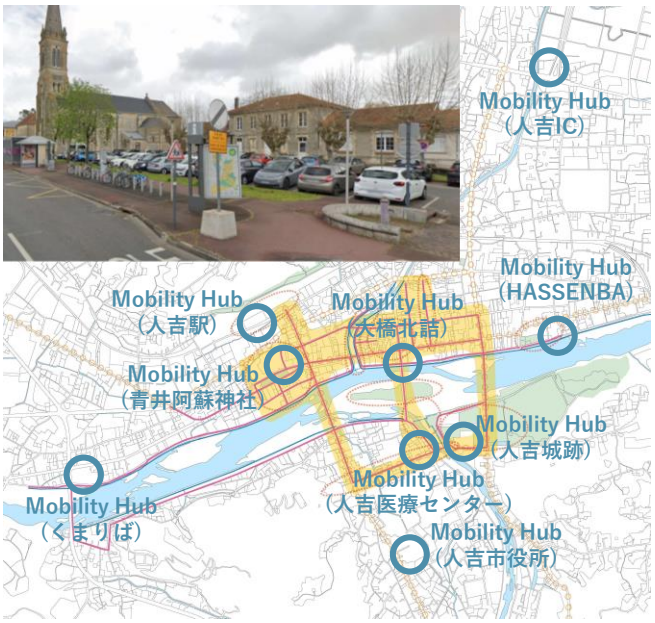
⑤まちなかの回遊動線を充実するため、**道路舗装の美装化や歩行空間・自転車通行空間の整備、シェアドスペース等の採用によるクルマの速度低減**等を図ります。

○大橋の歩行者専用化イメージ(金沢市)

○既存のシェアサイクルサービス

○モビリティハブの例(フランス・ボルドー)

駐車場・バス停・シェアサイクル・駐輪場・案内板が整備されたモビリティハブの例



夜間景観の考え方

過ごして良し、眺めて良し、絵になる夜景が点在する、人吉の新たな夜時間の創出

ビジョン
住む人・営む人・観光客のすべてに
- ●安全安心で
- ●まちの魅力が輝き
- ●めぐる楽しさがある

夜間景観をめざす

◆環境に配慮したあかり
◆省エネ

魅力の創出・発見　**回遊性向上**

◆愛着と誇りを感じる地域資源の磨き上げ

◆ウォーカブルシティ/かわまち
◆歴史文化を灯すあかり
◆営みを伝えるあかり

◆一度は見たい夜景（来街動機）
◆忘れられない夜景（リピート）
◆人に伝えたい夜景（情報拡散）

◆別な夜の演出
（花火・あかりのイベント）

誘客
人吉城跡・中川原と球磨川水辺の絶景夜景づくり
文化資源の照明演出

愛着
遊歩空間の照明整備
夜も心地よい居場所

安全安心

◆暗がりの払拭
◆防災減災照明　◆快適な日常

安心
主要街路の照明改善

安全
あかりによる避難誘導サイン

重点各エリアの照明整備の方向性

- まちのあかりは上質で落ち着いたものにしたい
- 省エネルギーにも配慮する
- 鍛冶屋町通りは通りらしさを創出する
- 445号と紺屋町通りの照明を改善する
- 城見庭園はおすすめのビュースポットに磨き上げる
- SL見学を夜もおすすめできるようにする
- 山田川水辺は夜の散歩が楽しくなるようにつくる
- うぐいす温泉周辺は夜景も素敵な環境にする
- 中川原公園は、眺めて美しく、夕刻にも行きたい素敵な水辺にする
- このあたりから眺めた球磨川夜景を磨く
- 青井阿蘇神社の周辺は、神社の風格に合う環境に整える
- 川を中心としたランニングコースの夜間の安全安心を実現
- 参道水辺はかっこいい場所にする！
- ３つの橋すべてが、夜景ランドマークとなっている！
- 隅櫓を眺められる胸川河原はフォトジェニックに
- 人吉城跡石垣は、「一度は見たい城」人吉を代表する夜景をつくりこむ
- 暗がりを払しょくする

青井阿蘇神社周辺

①国宝青井阿蘇神社の品格と歴史的価値を感じさせる神社周辺を含む夜間景観形成
②河川からの参道の視覚化と、エリアの安全安心の確保
③河川域の魅力的な夜間景観形成

山田川・区画整理（紺屋町）

①散歩が楽しくなる道路空間の創出(建物からの漏れ光も含む)
②河川内遊歩道の夜間の安全安心の確保
③飛び石や橋は、眺めても渡っても心地よい
④紺屋町道路空間の夜間景観改善

中川原公園・胸川

①球磨川右岸からの最重要夜景エリアであるため「眺めて楽しむ」エリア価値を創出する。
②橋梁・城跡石垣・中川原公園は重要な夜景ランドマーク
③中川原公園は夕刻から夜間にも静かな利活用が可能な明るさ感を確保

人吉城跡・歴史館

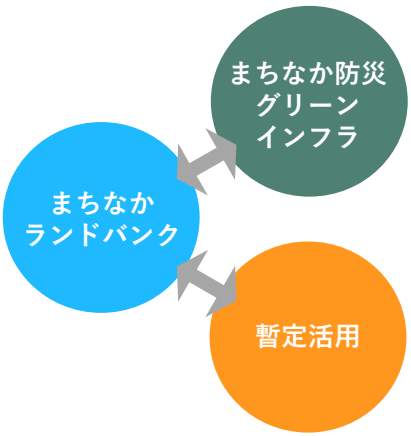
①「川に浮かぶ城」としての石垣の通年ライトアップの実施
②二の丸三の丸石垣のライトアップ及び、石垣を見えるようにするための樹木の伐採
③「眺める夜景の城」としての具体的なライトアップ実施

※イメージはアイディアのたたき台です

人吉まちなかランドバンクの考え方

「人口減少への対応」と「エリア魅力向上」を両立する、未利用地を「ストック→フロー化」、エリア魅力に活用する仕組みづくり

人吉では、水害後、人口減少の流れもあり以前のようにすべての土地で再建が行われず、空き地として残っている場所が多くみられます。水害前のような密な状況を求めるのではなく、**空き地がある疎な状況であっても、周辺環境を悪化させない、豊かな使われ方に変えていく工夫**が求められます。そこで、土地所有者と行政、民間の運営団体が連携して、空き地に雑草が生い茂り放置された状況ではなく、**暫定的に子どもの遊び場、グリーンを配した駐車場、期間限定店舗などの市民活用**につなげていきます。



防災・緑の流域治水に寄与（空き地の一部をグリーンインフラとして維持管理）

①敷地→雨庭（雨水浸透）
②道路・公園の公共施設の雨水浸透
③防災　緩衝帯・避難路の確保
④カーボンクレジットによる循環

暫定活用（店舗・滞留空間・農地等）

・活用希望者マッチング

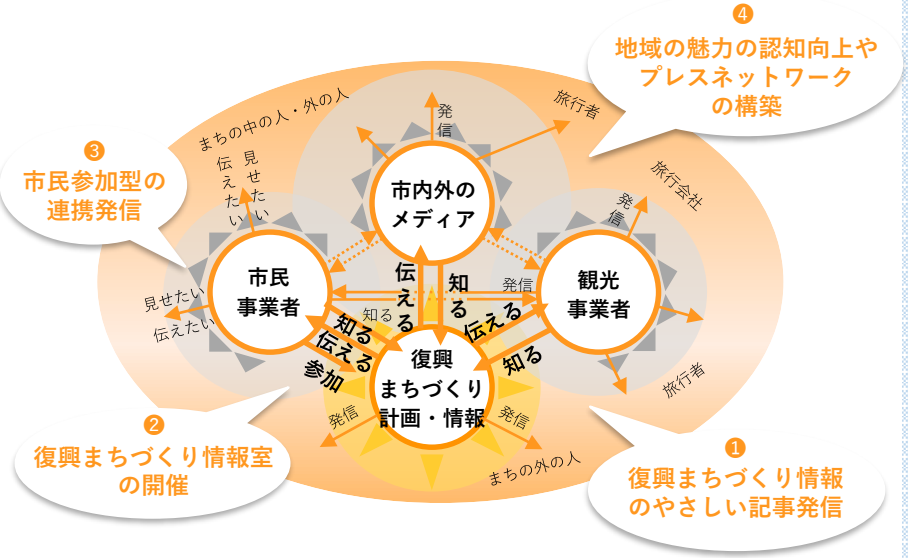
情報発信の考え方

復興まちづくり情報を共感と愛着につないで情報の拡大と拡散を生む「まちの発信力を向上するアクション」

復興まちづくりの情報を行政から民間事業者や市民へ共有するため、情報発信の基盤づくりに取り組みます。**メディア、事業者、市民へ共有することで情報の循環、参加の機会を促し、まちの中の人、外の人へ情報が拡散される連携をつくります。**

人吉市復興まちづくりデザイン会議公式

Instagram　X　note



まちの内外に届く「復興まちづくり」の情報発信

行政→民間事業者・市民へ共有　民間事業者・市民へ共有→参加と発信

持続的な地域経営に向けた仕組み

「担い手」と「財源」の確保

持続的な地域経営に向け、地域住民・関係人口、観光客、働き手のそれぞれの共感や満足度を高めるため、以下の３つの要素に取り組みます。主体としては、関係する既存組織の役割や対象エリア、各々の経営資源を確認しつつ、必要に応じて新たな財源や担い手の検討を行います。

地域経営の３つの要素

地域住民 関係人口 の共感・参画	**観光戦略づくり**	・戦略立案、事業推進 ・エリアマーケティング ・対観光客情報発信 ・コンテンツ企画
観光客 の満足	**不動産・公共空間運営**	・不動産事業（空物件活用） ・公共空間運営（河川道路公園） ・事業者誘致 ・駐車場運営
働き手 の満足	**事業環境づくり**	・地域事業者支援 ・働く魅力づくり ・地域循環の促進

景観・歴史・文化を維持発展する景観ガイドライン検討

地域の誇る「球磨川の景観」「まちの歴史と文化」を維持し発展させていくために、既存の景観計画やガイドライン等との整合を図りつつ、以下のガイドライン策定を検討します。

景観ガイドライン			夜間景観ガイドライン
①川への視線の抜け	②川への視点場	③街並み	公共照明の設置に関するルール
民間	公共・民間	民間	公共
例） ・川沿いに面した建物の1階を川への視線が抜けるように工夫 ・眺望景観のルール	例） ・眺望を確保、引き立てる設え ・佇めるような設え	例） ・建物形状/素材/ファサード ・照明/看板/色彩/緑などの統一	例） ・道路照明のルール ・広場/公園照明の考え方

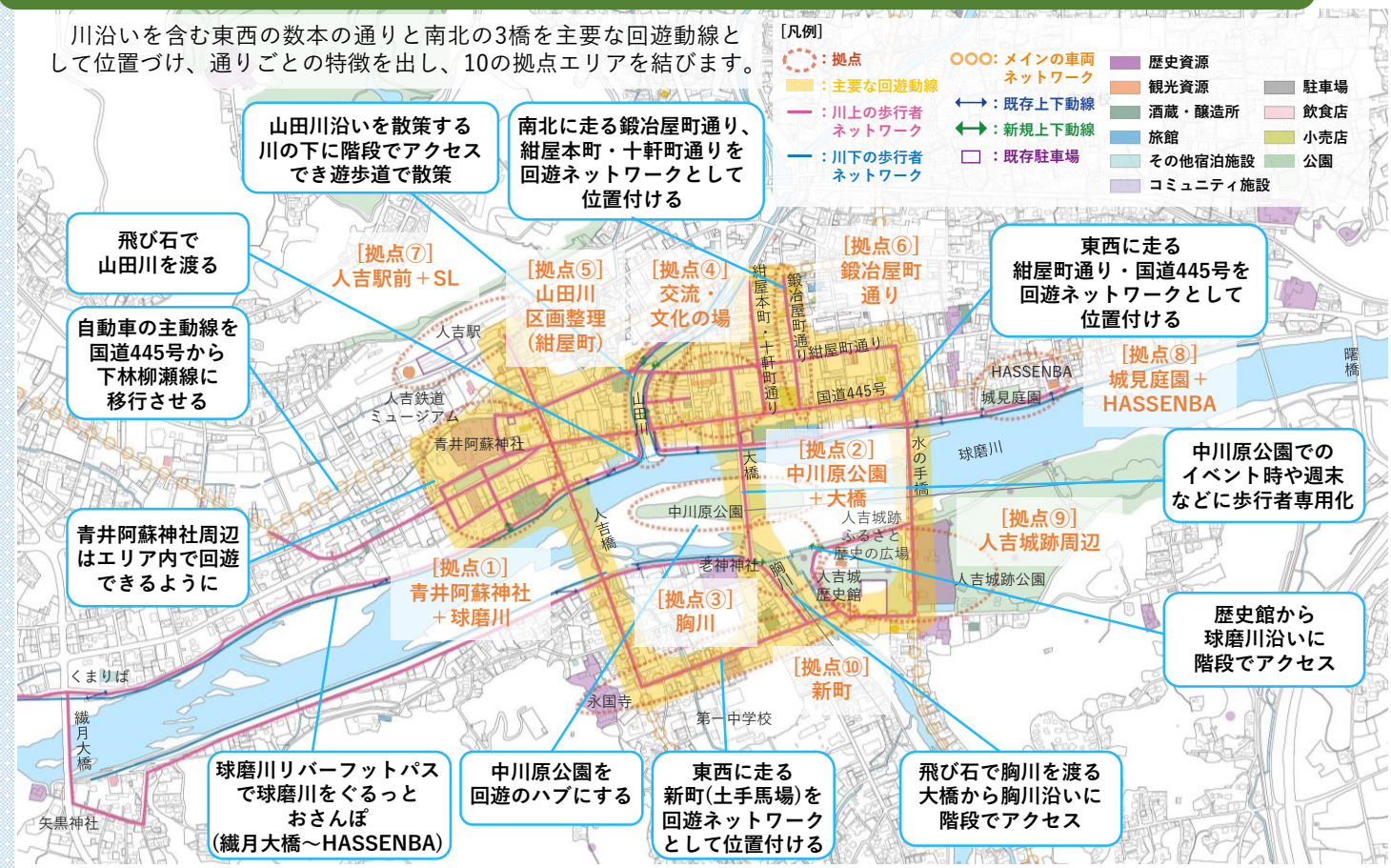
まちなかの価値を伝えるサイン計画・整備

まちなかの情報を適切に伝え案内するための統一感あるサインについて、以下のプロセスで計画、整備を行います。

①まちなかの既存サインの現状／課題の把握
②課題等への対応、まちなかのサインに関する基本方針作成
③基本方針に基づき、配置計画、表示計画、意匠計画作成

10拠点エリアを結ぶ水陸の回遊動線

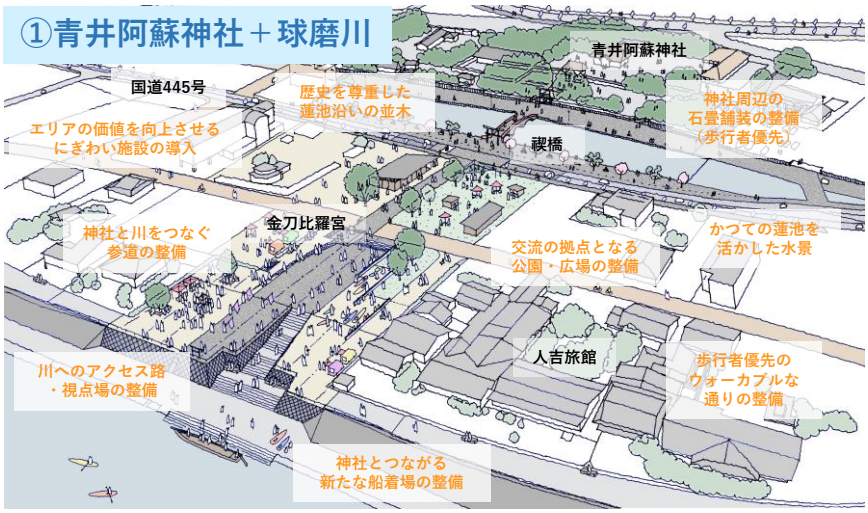
川沿いを含む東西の数本の通りと南北の3橋を主要な回遊動線として位置づけ、通りごとの特徴を出し、10の拠点エリアを結びます。



10拠点の活かし方と将来イメージ

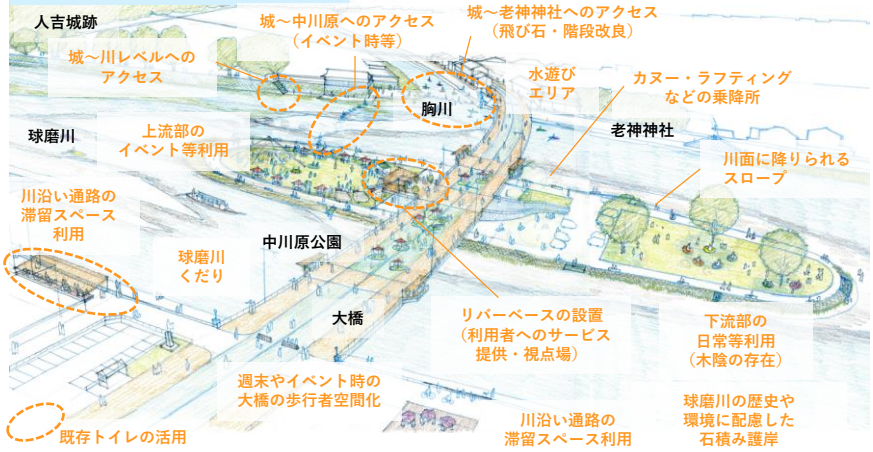
※イメージはアイディアのたたき台です

①青井阿蘇神社＋球磨川



- 人吉球磨に残る数々の歴史的建造物の代表であり、人吉球磨地域住民の心の拠り所である**青井阿蘇神社と連携し、人吉球磨に点在する歴史的建造物や相良三十三観音、日本遺産をつなぐ拠点としての機能を強化**します。
- 青井阿蘇神社周辺では、**歴史性を活かした石畳を参道から球磨川まで連続させ、神社の森と球磨川の水をつなぎます。**
- エリア内の道路は**歩行者を優先とした回遊動線として高質化整備**を行い、新たにできる広場や公園では公民連携事業による**市民・来訪者の交流の拠点**をつくります。
- 青井阿蘇神社周辺は観光の拠点、その周辺エリアは地元の生活空間としての性格を持ちますが、**国道445号では通りの一貫性を持った基盤整備**を行います。

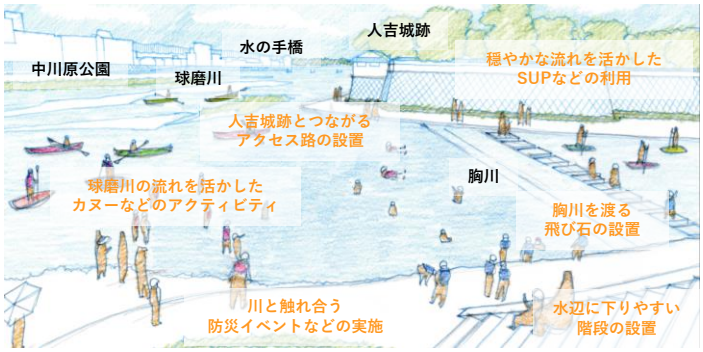
②中川原公園＋大橋



- **中川原公園を回遊のハブ、日常の憩いの場**とするため、照明や滞留空間、樹木等を設置し、**球磨川を代表する水辺空間を演出**します。
- 日常利用を促進するため、公園利用者へ飲食やアクティビティ用具のレンタル、各種情報提供などの**サービス提供を行うリバーベース**を設けます。
- **階段や飛び石を設けることで城跡や胸川とつながり、より川に近づきやすい環境**をつくります。
- **大橋を週末・イベント時に歩行者専用化**することで、中川原公園との一体的な活用、周辺との回遊強化を図ります。
- 球磨川右岸沿いの河川通路を沿道建物と連動して心地よい滞留空間に変え、**川や城跡を対岸から見る・見られるの関係をつくります。**

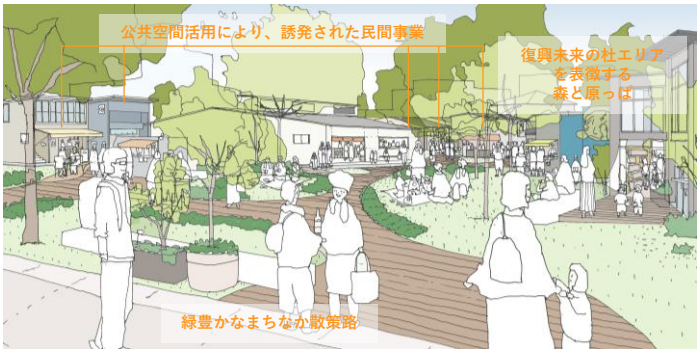
③胸川

・胸川下流付近を「**川遊びの拠点**」として川と触れ合い様々な水辺の活動ができる親水空間をつくります。
・飛び石や城跡からのアクセス路、階段等を設置して**球磨川上下流のアクセス性向上と水辺の活動を促します。**



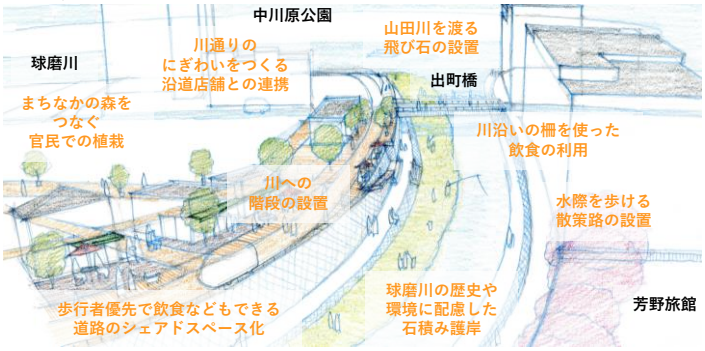
④交流・文化の場（うぐいす温泉周辺）

・**市民の日常の居場所に、また来街者の人吉球磨エリアの体験の入口となる場所**をつくります。また点在する未利用地を活用して、緑化や暫定活用を行うことにより、まちなかの価値を維持し将来の投資につなげます。



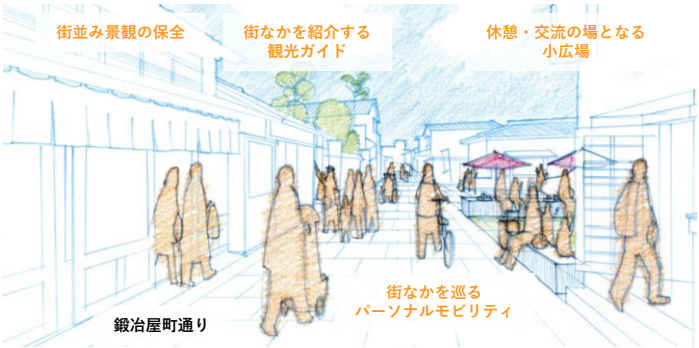
⑤山田川・区画整理(紺屋町)

・山田川護岸整備に伴い、まちと水辺をつなぐ階段やスロープを新たに設け、**川へのアクセス性を向上**させます。
・川沿いは**歩車共存のシェアドスペースとすることで、歩きやすく、川を眺められる場所**とします。



⑥鍛冶屋町通り

・**住民協定により守られてきた街並みを今後も維持**し、道路は破損した石畳舗装の修復を行います。
・町人地の趣やなりわい、ウンスンカルタやお茶、味噌蔵などの**文化的な営みを活かしたまちづくり**を進めます。

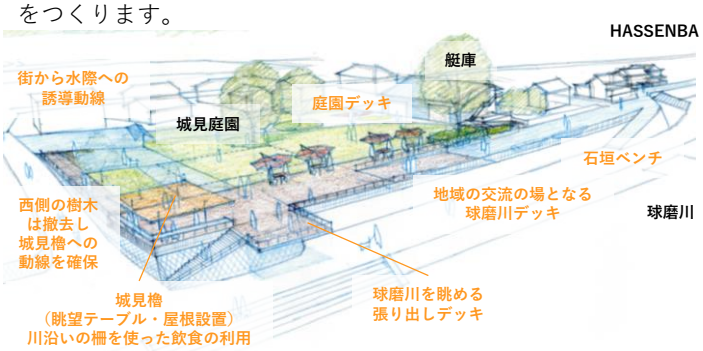


⑦人吉駅前＋SL

・SL人吉の動態展示を契機として、**くま川鉄道や沿線全体の活性化の起爆剤**になるような取り組みを進めます。
・将来の肥薩線の復旧も見据え、**駅舎・駅前広場・SL・鉄道ﾐｭｰｼﾞｱﾑ・大村横穴群など、駅周辺を一体的に再編成**します。

⑧城見庭園＋HASSENBA

・**周辺住民やカヌー部高校生などによる地域活動や交流が生まれ、HASSENBAともつながる場所**とします。
・川沿いをテラス化して、人吉城跡や球磨川の眺望スポットをつくります。

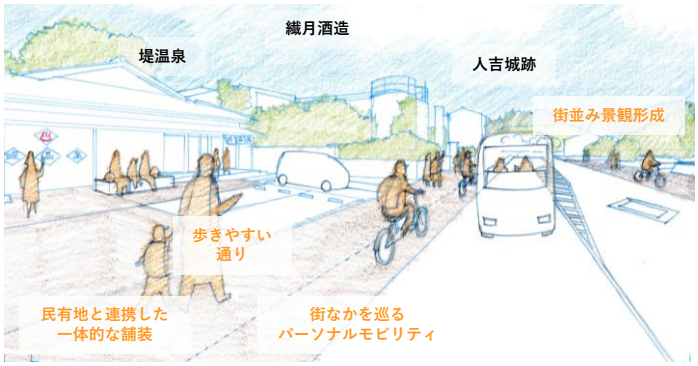


⑨人吉城跡周辺

・**歴史的雰囲気とより深い歴史文化が体感でき、球磨川両岸をつなぐ市内への回遊性を高める地域**となることを目指します。
・「人吉城歴史館」が結節点となり、観光客と市民をつなぐ役割を果たすような取り組みを進めます。

⑩新町

・城跡へのメインストリートである通りの歩行空間や照明を改良し、**生活者が歩きやすくまちあるきが楽しい通り**とします。
・「**球磨川左岸の観光まちあるきの拠点**」と位置づけ、観光客も移動しやすい通りを創出します。



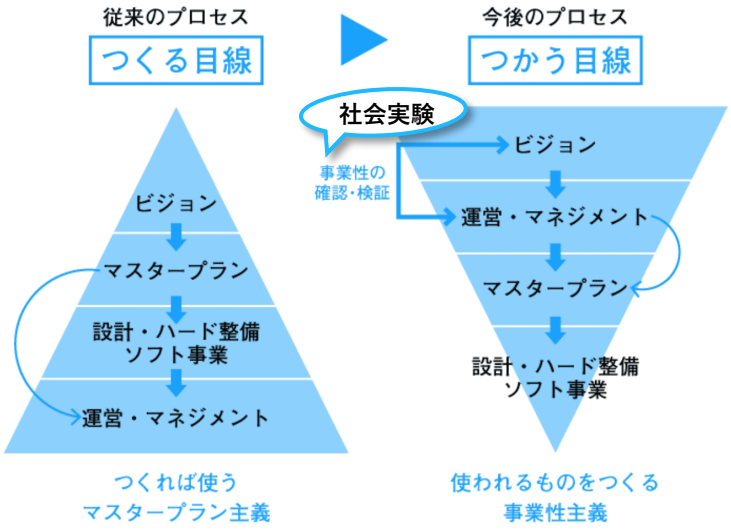
社会実験を通じた「つかう」主体と進めるまちづくり

「つかう目線」を先行させる進め方

社会実験を活用して、将来の「つかう」主体の方々と当初から進めていくのが、今回のアクションプランの大きな特徴です。

左図：従来のプロセスは、「つくる」側の行政や開発者がビジョンづくりからハード整備を行い、その後に商業者や居住者が運営するのが主流でした。人口が拡大しハードをつくれば使う人がいた時代の手法です。しかし現在では、使われない、管理不能な施設や場所が増え、これではうまく進みません。

右図：エリア価値を将来にわたり維持向上するには、事業や活動を行う「つかう」側の運営主体の役割が重要です。その主体がビジョンづくりや社会実験の検証に当初から関わることで、官民でビジョンの共有ができ、社会実験の検証により事業性や地域のコンセンサスを確認したものを実現できます。

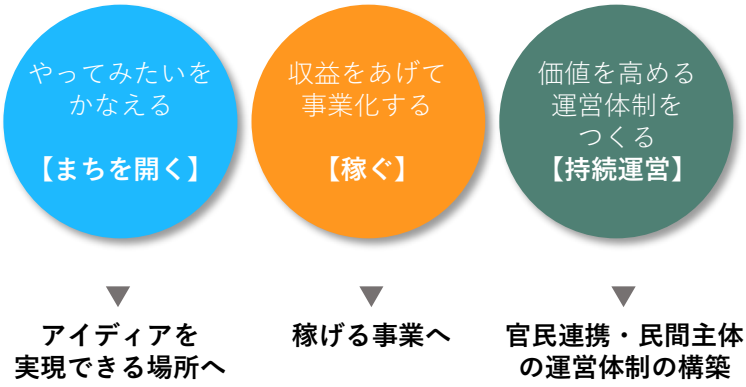


社会実験を活用して、将来の継続事業・活動や空間デザインに反映する

社会実験とは、小さく期間限定で、アクションプランの目指す将来像を事前に皆で体験し、そこで得た知見や世間の評価から、地域のコンセンサスづくりや今後の投資・活動主体の参画につなげていく、地域の新たな関係性や共感をつくる手法です。

生活者自ら、こんな日常の暮らしがあるといいなという想いを再確認する機会、事業者としてはファンを増やし稼ぐ事業として継続できるかを試す機会でもあります。机上の企画書では伝わらない、現場の臨場感や将来の夢を共通体験できる場です。

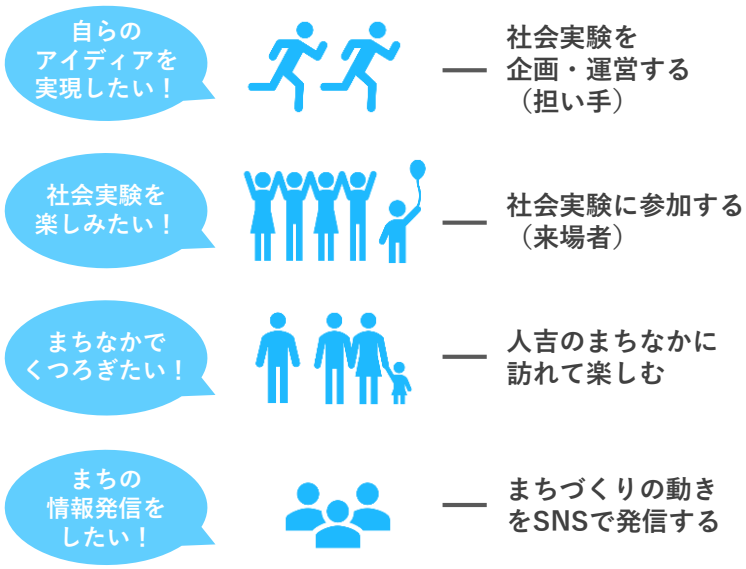
この検証結果をもとに、**地域の個性や魅力を活かした事業・活動の主体や内容、河川・公園・道路などの公共空間の豊かな使い方や空間デザイン、交通計画、制度設計などに活かしていきます。**



まちづくり・社会実験へのさまざまな関わり方

復興まちづくりや次年度以降の社会実験には、さまざまな関わり方があります。例えば、**自ら社会実験を企画・運営する、まずは社会実験に来場して楽しむ、まちなかを普段使いして散歩したりくつろいだりする、まちの情報をSNSなどで自ら発信する**、などです。

どんな関わり方でも結構ですので、ぜひ多くの方に関わり、この取組みを通じてまちなかのお気に入りを見つけたり、自らまちを使いこなしてほしいです。まちを楽しむ人たちが集まっていますので、ご興味ある方、ご参加したい方はぜひご連絡ください！



復興まちづくりや社会実験に参加されたい方への募集情報、開催情報は、公式note／X／Instagramにて随時ご覧いただけます。

リンクまとめページ